

JA自己改革ニュース

2022.7.21

自己改革
実践
サイクル編
No.1

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



新潟県 JAにいがた南蒲

園芸生産を拡大し所得増大へ

P

組合員から自己改革についての意見を聞き取る
営農指導員



JAにいがた南蒲は、ニラなど園芸品目の生産拡大や肥料コストの軽減など、担い手目線を意識した「農業者の売上増加・コスト低減」につながる取り組みを実践し、所得増大を目指します。

自己改革工程表の策定に当

たっては組合員の声を重視。新型コロナウイルス下で集落座談会が思うように開けない中でも、営農指導員・TAC※ら職員を通して組合員の声を随時聞き取り、若手農家を対象にした意見交換会も7月に開催しました。

※地域農業の担い手に向向JA担当者

所得増大につながる目標



+ さらに「園芸産地づくり推進助成事業」を実施

D 助成事業では支援総額1,000万円の助成金を活用して園芸生産の拡大を進めます。新規導入・拡大に対し資材や栽培機械にかかる費用の一部として、最大50%を助成し、生産拡大を後押しします。

特に栽培が増えているのがニラです。年3、4回収穫でき、水稲との複合経営も可能なため、積極的に提案しています。

C 自己改革の実践に当たって、2022年度はTACによる担い手訪問9,000件などを計画。准組合員の声の把握にも力を入れ、組合員の評価を踏まえながら必要な見直しをします。

A 改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることでPDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/ JA全中 (一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。